様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　4 月　25 日現在

機関番号：３２６３４
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００７～２０１０
課題番号：19530414
研究課題名（和文）　コーポレート・レピュテーションによる企業価値の創造

研究課題名（英文）　Creation of Corporate Value by Corporate Reputation

研究代表者
櫻井　通晴（Michiharu Sakurai）
専修大学・名誉教授
研究者番号：　30083596

研究成果の概要（和文）：日本におけるコーポレート・レピュテーション研究について，世界の研究水準に近づけることができた。加えて，管理会計という立場からコーポレート・レピュテーションの研究を完成させたことは，この研究の独創性を加えた。さらに，違った独自の研究という意味では，企業価を株主価値とするのではなく，経済価値，社会価値，組織価値という視点から理論体系を構築した。最終的には，日本のコーポレート・レピュテーションのグランド・デザインを描くことができた。

研究成果の概要（英文）：The research of corporate reputation has been developed to the level of Western academic one. In addition, the research was original because its research was conducted within the field of internal or management accounting. Furthermore, his research has unique characteristics in that corporate value means not only economic but also social and organizational value. Lastly, as a pioneer of corporate reputation in Japan, the research could draw a grand design for future research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２００８年度	700,000	210,000	910,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経営学・会計学
キーワード：コーポレート・レピュテーション，レピュテーション・マネジメント

１．研究開始当初の背景

インタンジブルズは現在，企業価値を創造する重要な役割を果たしている。それにもかかわらず，日本ではインタンジブルズの研究が遅々として進捗していなかった。財務会計ではインタンジブルズの研究が一歩進み始めている。しかし，管理会計では，全くこの問題は放置されているにすぎない。とりわけ，企業の評判（コーポレート・レピュテーション）に関する研究が全くなされていなかった。日本におけるコーポレート・レピュテーションの研究を行うことが喫緊の課題であった。

コーポレート・レピュテーションの研究は，日本では会計学だけでなく，マーケティング，

コミュニケーション，経営学など関連した学問領域でも本格的な研究がほとんどなされていない。にも拘わらず，レピュテーション・リスクの問題やＣＳＲなどとの関連で，レピュテーション研究の必要性は日増しに高まってきたという背景がある。

いま１つ，どうしても研究したい問題があった。それは企業価値に関するものである。欧米の文献では，企業価値というと，株価，利益，将来キャッシュ・フローの現在価値といったように，株主価値が中心として描かれている。日本の研究者の多くもその見解に追従しているかに見える。しかし，企業の価値は株主のための経済価値だけでなく，社会価値や組織価値をも含むのではなかろうか，といった疑問である。

２．研究の目的

コーポレート・レピュテーションの研究を世界水準にまで引き上げ，加えて日本の経営者のレピュテーションへの認識をしっかりと持ってもらうことを主要な目的とした。この研究を通じて，日本企業が世界から賞賛されるようになることを終極の目的とした。

幸いにして，この４年間で，世界の主要な研究者との交流が進み，日本におけるコーポレート・レピュテーションを世界的なレベルまで引き上げることができたと思っている。

３．研究の方法

文献研究，ケース・スタディ，アンケート調査を中心として研究を遂行した。初年度は文献研究，次いで，アンケート調査とケース・スタディを強めていった。

日本会計研究学会のスタディ・グループでの研究（インタンジブルズの管理会計研究），会社訪問，各種の研究会とタイアップさせて，研究を推進させていったことの成果も大きかったように思われる。

ただ１つ残念であったのは，実証研究を４年間の期間中に始めることができなかったことである。そこで，2011 年度には，9 月に久留米大学で行われる日本会計研究学会で，専修大学の伊藤教授他とともに，実証研究の結果を報告する。

４．研究成果

過去年間に得られた研究成果は，次のとおりである。

(1) この４年間の研究によって，世界レベルのコーポレート・レピュテーションの水準に完全にキャッチアップできた。もちろん，研究費を頂く前の過去５年間の蓄積も大きかったが，科研費で行った研究はこの成果達成に大いに役立った。

(2) 世界レベルの研究にキャッチアップするだけでなく，日本独自の研究が大きく進展した。つまり，コーポレート・レピュテーションをただ単に，PR や IR といったコミュニケーションの局面に限定で終わらすことなく，管理会計という内的な問題として取り上げ，新しい意味でのコーポレート・レピュテーション論を構築できたことは，研究の独自性といった点から評価できるのではないかと思われる。

(3) 研究はただ単に文献研究だけでなく，日本の企業を訪問して多くの実態に基づく研究を行うことができた。

(4) 科研費が与えられたので，世界の研究者と交流を深め，世界の一流の研究者とのディスカッションの場が得られた。

(5) 企業価値の本質を究めることができた。欧米では，企業価値というと，株価，利益，将来キャッシュ・フローと現在価値である。これらは株主価値と強く関連している。欧米のように，企業の目的が株主価値の増大であると解する限り，企業価値＝株主価値と解するのも間違いではない。しかし，日本の経営者は，企業をもって株主の富の増大だけを考えていない。多くの日本の経営者は株主だけでなくステークホルダーを重視する。ステークホルダー資本主義の国であるといえる。日本の経営者は経済価値だけでなく，社会貢献や環境保全などを含む社会価値，社員教育による従業員のスキルや能力のアップ，従業員の熱意，リーダーシップ，ネットワークなどからなる組織価値をも総合的に勘案して経営を行っていることが明らかになった。以上から，企業価値は経済価値，社会価値，組織価値からなるとする理論体系を構築した。

(6) 以上，コーポレート・レピュテーションのグランド・デザインを描くことができた。

以上のような研究成果が得られているが，まだ足りないものもある。それは実証研究の裏づけである。その面での研究はこの研究成果を記述している現時点で推し進めており，その成果は 2011 年 9 月に久留米大学で行われる日本会計研究学会の場で発表する予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　25 件）

1. 櫻井通晴「レピュテーション・マネジメントとその監査」『月刊　監査役』No.570, 2010, pp.24-35.（招待論文）
2. 櫻井通晴「三菱自動車のリコール回避の問題と再生への道程」『産業経理』Vol.70,

No.4, 2010, pp.4-14.査読なし
3. 櫻井通晴「雪印ブランド再生のための持続的発展の可能性」『税経通信』Vol.65, No.6, 2010,pp.28-37. 査読なし
4. 櫻井通晴「コーポレート・コミュニケーションのレピュテーションへの貢献」『専修経営学論集』第 91 号, 2010, pp.1-22. 査読なし
5. 櫻井通晴「コーポレート・レピュテーションの測定―レピュテーションの企業価値への影響と測定―」『企業会計』Vol.63, No.2, 2010, pp.18-28. 査読なし
6. 櫻井通晴「管理会計によるインタンジブルズ管理のアプローチ」『城西国際大学紀要』第 17 巻, 2009, pp.35-58. 査読あり
7. 櫻井通晴「コーポレート・ブランドの意義, 必要性, 歴史的発展, ケース」『税経通信』第64巻, 2009, pp.17-27. (招待論文)
8. 櫻井通晴「レピュテーション・マネジメントと監査役」『月刊　監査役』No.563, 2009, p.3. (招待・巻頭論文)
9. 櫻井通晴「レピュテーション・マネジメントに関する日本の経営者の認識」『中央大学経理研究』第53巻, 2009, pp.1-11. (巻頭論文)
10. 櫻井通晴「ステークホルダー理論から見たステークホルダーの特定」『専修経営学論集』第90号, 2009, pp.183-206. 査読なし
11. 櫻井通晴「インタンジブルズとレピュテーション・マネジメント」『管理会計学』日本管理会計学会, 第 18 巻, 第 2 号, 2009, pp.41-51. (招待報告とその論文)
12. 櫻井通晴 Management Perception of Reputation Management in Japan, 『城西国際大学紀要』第 18 巻, 第 1 号, 2009,pp.61-81. 査読なし
13. 櫻井通晴「松下は石油温風機事故でもなぜ企業価値を向上させたか」『企業会計』Vol.60, No.4,2008, pp.97-105. (招待論文)
14. 櫻井通晴「会計学はレピュテーションの維持・向上に貢献するか―会計手法によるレピュテーション・マネジメントの提唱―」『産業経理』第 68 巻, 2008, pp.17-27. 査読なし
15. 櫻井通晴「ＹＫＫの世界戦略とレピュテーション・マネジメント」『行政の信頼性確保・向上方策に関する調査研究報告書』総務省大臣官房企画課, 2008, pp.99-106. 査読なし
16. 櫻井通晴「ＥＶＡの特質と日本企業への適合性―経常利益, ＲＩ, 社内金利, ＢＳＣとの関連性―」『専修大学経営学論集』第 87 巻, 2008, pp.47-76. 査読なし
17. 櫻井通晴「レピュテーション・マネジメントの有効性―会計学はレピュテーションの維持・向上に役立ちうるか―」『専修経営研究年報』第 33 巻,2008, pp.93-111. 査読なし
18. 櫻井通晴「医療品質の向上はコーポレート・レピュテーションを高める」『医療バランスト・スコアカード研究』No.4-1, 2007, pp.25-35. 査読なし
19. 櫻井通晴「コーポレート・レピュテーション研究の学界への貢献可能性」『会計』No.171, 2007, pp.30-45. (招待報告とその論文)
20. 櫻井通晴「リスクマネジメントのコーポレート・レピュテーションの貢献」『会計・監査ジャーナル』622 巻, 2007, pp.119-125. (招待論文)
21. 櫻井通晴「医療品質の向上はコーポレート・レピュテーションを高める」『医療バランスト・スコアカード研究』No.4-1, 2007, pp.25-35. (招待講演とその論文)
22. 櫻井通晴「わが国の公的機関における効率性と有効性の必要性」『会計監査研究』36巻,2007, pp.9-17. 査読なし
23. 櫻井通晴「ＣＳＲ活動が及ぼすコーポレート・レピュテーションへの影響」『行政の信頼性に関する報告書』総務省官房企画課, 2007, pp.153-169. 査読なし
24. 櫻井通晴「バランスト・スコアカードにおける業績評価尺度の測定と選定」『行政＆情報システム』43 巻, 2007, pp.45-49. 査読なし
25. 櫻井通晴「医療機関の向上における経営企画部の役割」『産業経理』67巻, 2007, pp.4-14. 査読なし

〔学会発表〕(計　6件)
1. 櫻井通晴「コーポレート・ガバナンスとマネジメント・コントロール」日本管理会計学会 九州部会, 記念講演とディスカッション, 2011, 1, 29, 福岡大学(統一論題の報告者)
2. 櫻井通晴他「インタンジブルズとレピュテーション・マネジメント」日本会計研究学会, スタディ・グループの研究成果を主査として発表。東洋大学, 2010年9月
3. Michiharu Sakurai, Impact of Toyota Recall on Corporate Reputation, The 14th Inter- national Conference on Corporate Reputation, Brand, Identity and Competitiveness May 19-21, 2010, in Rio De Janairo, Brazil.(Invited presentation

4. 櫻井通晴「インタンジブルズの管理会計研究―コーポレート・レピュテーションを中心に―」日本会計研究学会，スタディ・グループの研究成果を主査として中間報告として発表。2009 年 9 月
5. 櫻井通晴「インタンジブルズと管理会計―レピュテーション・マネジメントを中心に」日本管理会計学会，2009/8/28，亜細亜大学（統一論題）
6. Michiharu Sakurai, Management Perception of Reputation Management in Japan, 13th International Conference on Corporate Reputation, Brand, Identity and Competitiveness, Reputation Institute, in Amsterdam, May 30, 2009.

〔図書〕（計　8 件）

1. 櫻井通晴『コーポレート・レピュテーションの測定と管理―「企業の評判」の理論とケース・スタディ―』同文舘出版，2011 年，pp.1-500.
2. 櫻井通晴『管理会計　基礎編』同文舘出版，2010，pp. 1-260.
3. 櫻井通晴「第 11 章　レピュテーション・マネジメントの実践―パナソニックとＦＦ式石油温風機事故―」（辻正雄編『ＭＢＡアカウンティング　戦略管理会計』中央経済社，2010，pp.3-21）
4. 櫻井通晴「第 1 章　レピュテーション・マネジメントの理論」（辻正雄編『ＭＢＡアカウンティング　戦略管理会計』中央経済社，2010，pp.3-21）
5. 翻訳，櫻井通晴・伊藤和憲監訳（原著者・Robert S. Kaplan and David P. Norton）『戦略実行のプレミアム―競争優位のための戦略と業務活動とのリンケージ―』東洋経済出版社，2009，pp.1-389.
6. 櫻井通晴『管理会計　第四版』同文舘出版，2009，pp.1-730.
7. 櫻井通晴『レピュテーション・マネジメント―内部統制，管理会計，監査による評判の管理』中央経済社，2008 年，pp.1-398.
8. 櫻井通晴『バランスト・スコアカード―理論とケース・スタディー[改訂版]』同文舘出版，2008，pp.1-500.

６．研究組織

(1)研究代表者
専修大学・名誉教授
櫻井　通晴（Michiharu Sakurai）
研究者番号：30083596